

岐阜支部

ちようちん

2014年5月号

全国障害者問題研究会岐阜支部 〒500-8879 岐阜市徹明通7-13 岐阜県教育会館401

Tel/Fax 058-253-7033 Email zenshouken_gifu@yahoo.co.jp

ホームページ作成中！！

ただいま、デザイン会社のC-POWERさんにより、準備委員会のホームページが作られつつあります。今回は、そのトップページのデータが手に入りましてので、お知らせします。URLは、下の通りです。

ぜんこくしょうがいしやもんだい けんきゅうかい

第49回 全国大会 2015

www.zenshouken-gifu.com

未来

岐阜支部

第49回 全国大会

2015年

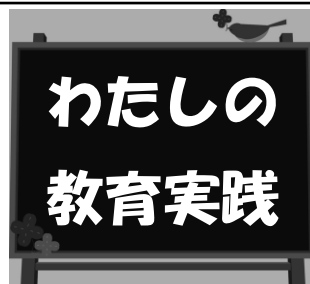
8月8日(土)・9日(日)

www.zenshouken-gifu.com

ホームページ現在作成中

「特別支援教育体制」に流されながら

東濃特別支援学校 水野浩洋



「私の教育実践」ということでの原稿依頼を受けましたが、なにを書こうか、なにが書けるかを考えている時に、ちようちん4月号の堀先生の本稿を読みました。特別支援教育になってからは、支援計画や授業案まで、形に現れる「評価基準」を求められ、私自身は、まともな“教育実践”はしていないことに、自覚は持っていました。こんなところで、大胆に開き直っています。（反省！）

日々の生活の中で「子どもの内面をしっかりとらえて…」を基本に…という構えは忘れないでいるつもりですが、特別支援教育体制の中で流されている部分が多いと思います。

みなさんからの客観的なご意見をいただけたらと思っています。

Kくんの思いを受けとめて

Kくん、集団の中になかなか入れず、土いじりや水が大好き。初めての場所や初めての課題、予定変更には、てきめん拒否の姿勢。気持ちが落ち着かず、ピョンピョンと飛び回り、それで汗をかきまた不快が増す、悪循環に入ってしまう。そんなKくんに4月から関わってきた。



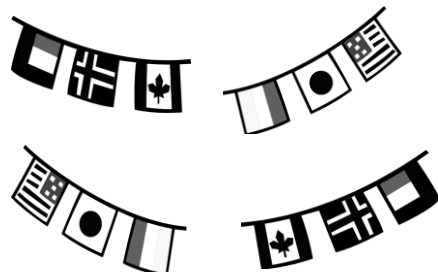
本校は、小中学部は「運動会」を5月末頃に、高等部は9月末頃に「体育大会」を分けて行っている。10年ほど前にグラウンドに第3棟と称するプレハブ校舎が出来たため、分離開催をしてきた。



今年は5月24日（土）に「運動会」が開催される。ゴールデンウィークを過ぎた頃から、運動会練習で通常の日課ではない日々が続く、週末ともなるとKくんに限らず疲れもストレスもたまってきている。

Kくんは、大好きなシーソーに乗りたくて遊具の写った写真カードを指さし、教師に何度も強く迫る。

学年では、金曜日の午後（5限）は、教室の掃除と一週間使ったエプロンの洗濯を行うことにし、洗濯はクラス単位で当番制にしている。今日はKくんのクラスの初めての当番の日。「最初は洗濯の仕方をみんなで一緒にやって…、見通しがついた上で…」と計画はしていたが、副担任は、運悪く午後から出張。担任から、「Kくんは掃除が苦手なので、洗濯物を洗濯機に入れて、そのまま外に出よう」とKくんと私に提案した。私はKくんの気持ちを落ち着かせ（落ち着いてはいませんね）、提案を確認し、洗濯物を持ち一緒に出かけたが、すぐに持ち手

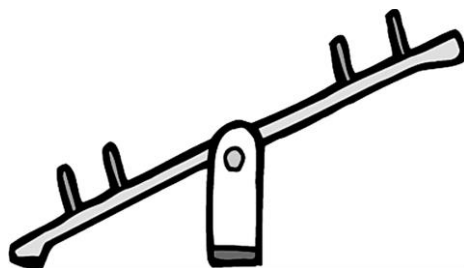


を離してしまう。洗濯機のある場所は、生徒玄関を通った先の寄宿舍。洗濯には行けないだろうなあ
と予想はしていた。やはり、靴を替えてグランド直前の構え。私も、シーソーでクールダウンして、
戻りの途中で…と作戦変更！



ところで、Kくんはなんでシーソーが好きなんだろう？一緒に乗る度に考えてきた。ブランコも好きだが、同じ揺れではないかもしれないが、シーソーとの大きな違いは、“一人では遊べない”ことではないかと、考えてみた。Kくんは、いろんな方法で意思を伝えようとしているが、一番多い（一番わかりやすい）のは、手を叩いてこちらの気持ちを向かせることであり、シーソーを止めると、手を叩いて要求する。

要求は“シーソーを揺らして！”というよりも“一緒にあそんでよ！”と見えてならない。揺れながら、歌をうたったり、名前を呼んだりしながらリズムよく揺れることを続けた。クールダウン担当の私とのシーソーを楽しみにしているかにも思えてきた。帰りの会の前の少しの時間に廊下を通る私を見つけ駆け寄ってくる。「一緒にあそぶ時間だぞ」とばかりに…。



洗濯の作戦変更は、「一緒にあそぶ」ことで気持ちの切り替えはついたのか不安であったが、下駄箱で靴を替えたところで、洗濯物を持ち誘うと、私の後について寄宿舍の方へ歩き出す。でも寄宿舍の入口で躊躇しているKくんを見て、「今日はここまで、今度みんなと洗濯覚えようね」と伝え教室に戻った。担任には、一部始終を伝え、初めてのことなので、次回みんなで洗濯という経験をしようとしてチャレンジしましょうと付け加えた。

揺れる気持ちに寄り添って

また、こんな場面もあった。シーソーに揺られているとき、「帰る時間が近づいたから終わりにして教室へ行こう」と言うと、すぐに立って移動を始めた。しかし、下駄箱では靴を替えようとしなかった。まだもの足りなかったのかもしれない。私は靴を替え教室へ向かおうとするフリをする。それを見てKくんはやっぱり行きたい！と2～3歩走り出し、止まって振り返る。「行きたい、でももう時間がないようだ…」揺れる気持ちを自分の中で調整をしている。すかさず「明日また行こう！」と声をかけると、ニコリと頷いて靴を替えた。

こんな一瞬が嬉しいと思いながら、日々を過ごしています。こんな関わりの積み重ねや教員集団での共有が大切な実践なのかと思っています。

ポップ・ステップ・ジャンプ！！

～私の奮闘記～

（ポップコーン職員）



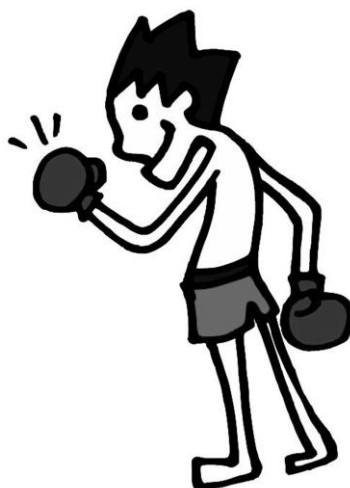
私は今の勤務先である通所施設ポップコーンにはいるまでは、主に保育園で6年間働いていたので、人を見る事には、自信がありました。自閉症の子も何人かいたので、勉強もしてきたし、傾向も、関わり方もある程度分かっていたつもりでした。それにそれまでは一人で20～30人の子どもを見ていたので、最初に担当に付いた時に一人の人を一日見てねといわれた時は、「え！たった一人みただけでいいの？」「これで仕事になりたつの？」とすごい面くらったのを覚えています。

でもこの仕事を続ける中でわかってきたことがいくつかあります。

一つ目は初めて担当に付いたシンさんです。はじめは名前を呼んでも、ずっと端っこのスペースで立ちつくしたままでした。「靴片付けしようか？」といってもじっと目を合わせることもなく、あまり何度も言おうものなら、「もういい」「かえるー」と怒って首をふるしぐさをします。そうかと思うと、時が来るとサッと自分の靴箱に靴を入れて、タオルをかけたり、基本的な自分の身の回りのことは、全て自分でやっていました。

生活の介護の仕事をするつもりでいた自分には何をすればいいのか、何のために私がいるのかよくわかりませんでした。でも関わっていくうちに友達のような感覚でいいのかなと思うようになりました。変にやらかなきゃとか、過剰な気遣いはかえって失礼なんだなと学びました。

二つ目はノリコさんです。関わっているときに、自分がしたくないと思った時に、私が支えている手を放すと、転倒してしまう角度で、体を傾けたり、時にはお腹がすいていても、自分の気持ちを表すのにわざと食べなかったり、自分の頭をたたいたり、とにかく自分の嫌だという意思を伝えるのに、手段を拵ばない姿をみせてくれます。



言葉としては喋れなくても、その何倍もメッセージとして伝わってきます。「なんでそんなに意地をはれるんだ?」「もっと賢くなればいいのに」とつつい思ったこともありました。

でもいくらか仕事をしていく中で「この言葉にならないメッセージをどれだけ聞こうと思ひ、考え実践に生かしていくことが大事なんだろうな」と感じるようになりました。

例えばご飯を食べずに後ろを向いていた時に、私はいろんな解釈を付けることができます。「私が嫌いだからかな」「胃の調子が悪いのかな」「タイミングが悪かったのかな」「このおかずが嫌いなのかな・・・」いろいろな事を考え考え研鑽し実践していく中で、上手くいくこともあるし、なんともならないこともありました。

結果としてはもちろん上手くいくことも大事だとおもいますが、私はこの研鑽し続ける姿勢が、ノリコさんが求めていることなんじゃないかと思ひます。一見不器用に見える行動もノリコさんにとっては、自分を知ってもらおうと全力で伝えてきてくれている。それを真摯に受けいれノリコさんと同じ視点から考えることが、とても重要なのではと考えるようになりました。その後は自分自身の勝手な決めつけをすることが正しいというような物差しが出てきた時は、そつと横においてノリコさんと接するように心掛けています。



三つ目に二つ目とは矛盾しているのかもしれないですが、もう一つ大事にしたいのが、なんでもかんでも無理に人の事を分かったつもりになる必要はないんじゃないかと思ひます。人は何にでも意味を求めますが、人生の側には意味なんてもともと存在しないと私は思うので、ある面ではわりきりというか、軽さがあつた方がいいのではないかと思ひます。究極的に言えば他人の事なんて完璧にわかることはできません。それならばいっそのこと自分が好きな意味をつけて関わっていく

こともありじゃないかと思ひます。

人と関わるこの仕事には、答えはきつとたくさんあると思ひます。

もうこれで終わり完璧ということはないのではないのでしょうか?

私たちのこの実践の“今”の積み重ね一つひとつが仲間にとって大切な宝物（過去）になり、未来を明るくしていけると思ひます。



発達の魅力にとりつかれ（前編）

笹田トヨ子

林町共保で「発達」のおもしろさを知る

昭和58年4月、夫の仕事の関係で私たち一家は大垣に転居してきました。私はそれまで大学病院で看護師をしていましたが、一旦仕事を辞めて心理学を勉強したくて2人の子どもを保育所に預け、大学に通い始めました。2歳半の長女と産休明けの長男を預けた林町共同保育所は、無認可保育所で4月になると子どもがいなくなる4月危機に喘いでいました。しかし、この年は久しぶりに2歳児が5～6人、0、1才も含めると4月当初から10人近くの子どもの集まり一定の集団ができ、活発な保育実践が行われていました。大垣女子短大の田中俊雄先生の指導のもと、林町共保施設長の川井先生や公立保育園の保母さん達と西濃発達保障研究会を作っていました。発保研で出される保育実践が父母にも回ってきて、子どもたちの生き生きした姿が出ている実践記録を読むのが楽しみでした。

4月危機を迎えた林町共保でしたが、何とかこの保育所を存続させたいという思いがつのり、はだしっこ保育園新園舎建設運動の原動力になったと思います。その当時1000万円のカンパを集めるなんて、誰もが想像できなかったのですが、私が大学を卒業する頃に45人定員のはだしっこ保育園が誕生しました。

発達相談員になるために

はだしっこ保育園が出来たとき、「せっかく心理学を勉強したのだから」と田中俊雄先生から発達相談員になるよう勧められ、大津市にある人間発達研究所に行くことになりました。そして、大津市の4ヶ月児健診と10ヶ月児健診に月1回アルバイトとして研修させてもらい、本格的に子どもの発達を学ぶことになりました。その中で別府悦子さんや白石恵理子さんとの出会いがありました。その後彦根児童相談所で療育手帳の再判定検査と彦根保健所管内の保健センターを巡回し発達相談を行う仕事の中で鍛えられました。今から考えると稚拙な相談で赤面の至りです。未熟な私を受け入れて経験させてもらった彦根の保健師さんや児童相談所の皆さん、そして多くの子どもさんやお母さんには本当に感謝しています。

当時、私の教科書は田中昌人先生の「子どもの発達と診断」と白石正久さん等の「発達診断と障害児教育」、そして「みんなのねがい」でした。何回も読み返しながら、発達相談に臨んだものです。その中でだんだん発達の面白さがわかり発達相談が楽しくなりました。発達相談の中で常に意識し学んできたことは、田中昌人先生の「発達保障における3つの系」（個人の発達、集団の発展、社会の進歩）で、今の仕事においても大事な視点になっています。

（次号につづく）

4月5日(土)の第8回準備委員会で報告・検討された内容を、前号に引き続きお知らせします。

☆今年度は滋賀大会に、みんなで参加しましょう！

今年の8月9・10日には、滋賀県で全国大会が開かれます。来年の開催を控え、全国大会を肌で感じて、イメージづくりをしたり、舞台裏の様子を確認したりしてきましょう。

また滋賀大会までに、大会記念Tシャツを作製する段取りになっています。これを着て、次大会の岐阜をアピールしましょう。

☆岐阜大会をきっかけに、岐阜をみんなが暮らしやすい地域にしましょう！

大会に参加する障害者が2日間を過ごしやすくするために、岐阜の地域のバリアフリー化をすすめていきたいと考えます。

準備委員会で動きだしているのは、JR岐阜駅のエレベーターの問題です。移動に困難さをもつ方は、岐阜駅の改札階からプラットホーム階に上がるのにエレベーターを使う必要があります。しかし、これがとても不便なところに設置されているため、利用者は一回ずつ駅員にお願いして、それから相当時間待って、駅員の誘導のもと、やっとエレベーターを使用できる、という現状です。

今、JR東海の中で役職のある方とお話する機会が整いつつあります。

大会のためだけではなく、その後も大きな財産を岐阜に残すことができます。大会準備を契機に、みんなで声を出し、運動を押しすすめ、岐阜をどんな人も住みよい地域に変えていきましょう！

☆後援を受けるための動きもできています

現在、岐阜県と岐阜県教育委員会から、後援の許可がおりています。

☆今後のフシ企画の予定

第4弾（岐阜講座） 9月13日(土) 中部学院大学 各務原キャンパスにて

『今、就学前療育の値打ちを考える』 講師：近藤直子さん

他に、岐阜県や施設より、就学前の実情アンケート等の報告があります。

第5弾（高山講座） 10月5日(日) 高山市役所ホールにて

寺澤大祐さん、小森淳子さんの講演

第6弾（中津川にて）10月12日(日) 「ふれあい交流会」

ほっとハート、ラブ・ピース、かがやきキッズなどと共催

☆準備委員会の日程

○第9回 6月14日(土) ○第10回 7月5日(土) ○第11回 8月2日(土)

※すべて、岐阜大学地域科学部5階心理学実験室にて、15時より



全国大会 in 岐阜 2015

第9回準備委員会のお知らせ

日時：2014年6月14日（土）
15:00～18:00（終了予定）
場所：岐阜大学地域科学部5階
心理学実験室
内容：JR岐阜駅エレベーターの件 他

全障研会費納入のおねがい

- ・年会費は3,000円となっております。
- ・2014年度の会費が未納の方は、同封した振込用紙などで納入してください。封筒の宛先シールの右下に「2014 済」と記入されている方は、すでにいただいています。重ねてのお願い、失礼いたしました。